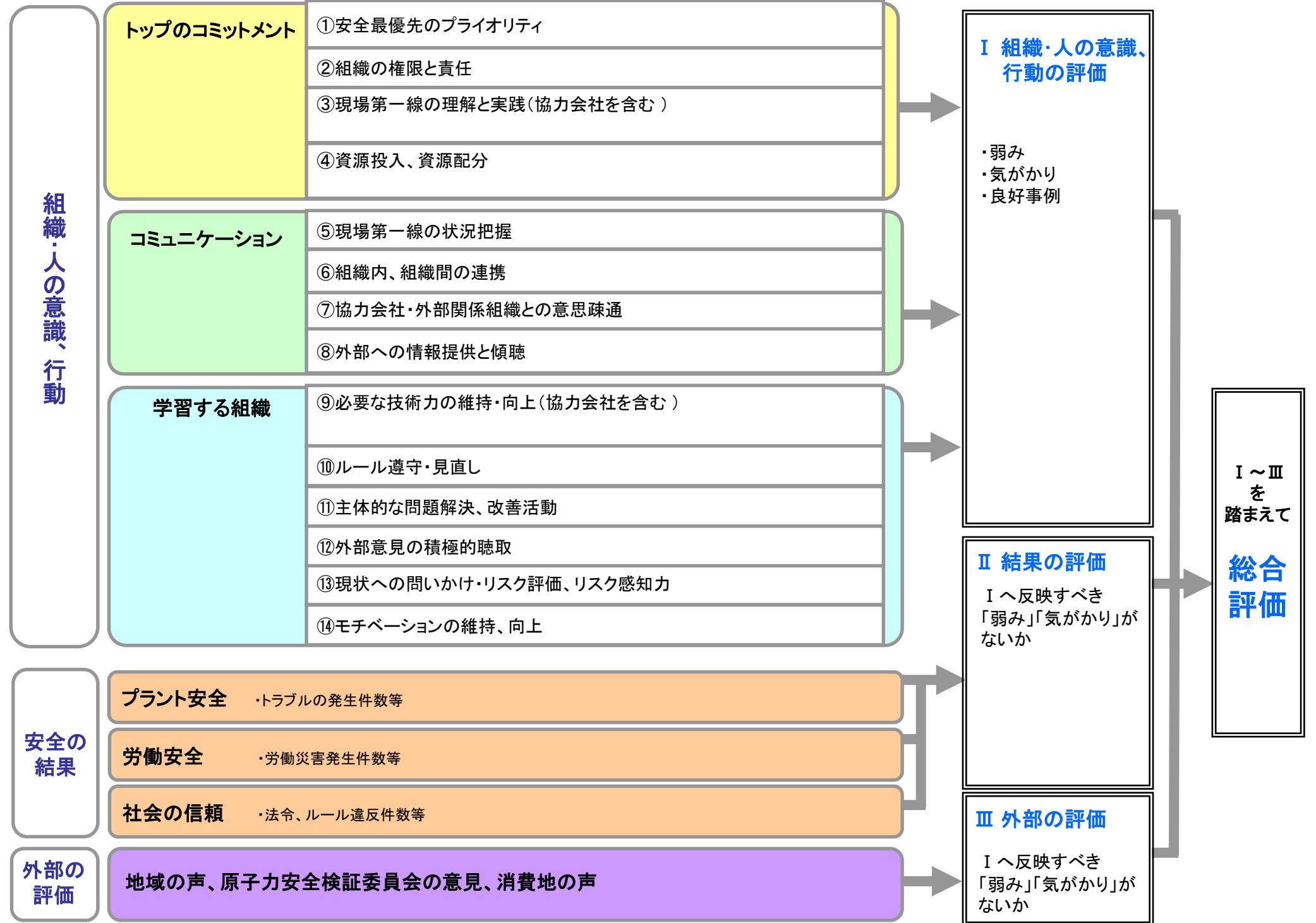


# 平成29年度 原子力部門 安全文化評価の 実施結果について

平成30年 6月 1日  
関西電力株式会社

## 安全文化評価の枠組み

〔3つの切り口〕 〔安全文化の3本柱〕 〔具体的な評価の視点(14項目)〕

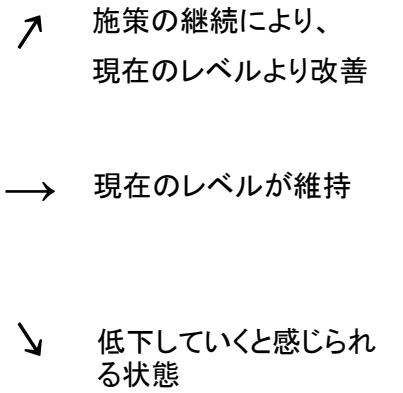


## 原子力部門評価の考え方

①4段階評価  
 インพุット情報に基づき、評価の視点ごとに「あるべき姿」と対比し、次の4段階で評価



②傾向評価  
 2～3年後の状態をベクトルで表示



【課題】  
 「問題」「改善余地あり」と判定した項目、又は傾向評価を「↘」とした項目に対して抽出

【気がかり】  
 今後、推移を見守る必要があると考えられる事項を抽出

## 平成29年度原子力部門評価結果

H30年度の重点施策の方向性

働き方改革を推進していくための効果的・効率的な業務遂行の推進

協力会社アンケート結果を踏まえた、協力会社との意思疎通の更なる改善

プラント長期停止および要員の年齢構成を踏まえた技術力の維持向上に係る社員育成策の充実・強化

重傷災害ゼロ、その他の労働災害の低減に向けた取組みの実施

H30年度重点施策の策定  
(重点施策の具体化はH30年度計画策定時に実施)

評価の視点		H28年度	H29年度	評価 ●:課題 ◇:気付き	
トランスペアレンスト	①安全最優先のプライオリティ	改善余地あり <sup>△</sup>	概ね良好→	—	
	②組織の権限と責任	概ね良好→	概ね良好→	◇突発業務や線引きの難しい業務の責任と権限が適切に調整されていくか注視していく。	
	③現場第一線の理解と実践	社員	概ね良好→	概ね良好→	◇(社員)社達の浸透活動の継続的な実施により、浸透が進んでいくか注視していく。
		協力会社	概ね良好→	概ね良好→	—
④資源投入、資源配分	改善余地あり <sup>△</sup>	改善余地あり→	●働き方改革を推進していくため、効果的・効率的な業務遂行に向けて、具体的な取り組みを検討し、計画的に進めていく必要がある。 ◇予算を効率的に活用し、安全性を確保しているか注視していく。		
マルチタレント	⑤現場第一線の状況把握	概ね良好→	良好→	—	
	⑥組織内、組織間の連携	概ね良好→	概ね良好→	◇各組織で気付きとして抽出している組織内外の連携が図られていくか注視していく。	
	⑦協力会社・外部関係組織との意思疎通	改善余地あり <sup>△</sup>	改善余地あり <sup>△</sup>	●協力会社アンケート結果から得られた課題について、内容の確認・精査を含め、具体的な取り組みを検討し、課題の解決に努めていく必要がある。	
	⑧外部への情報提供、傾聴	概ね良好→	概ね良好→	◇規制の枠組みに留まることなく自主的かつ継続的な安全性向上対策の推進により、安全性のさらなる向上に取り組むとともに、地域の皆さまから信頼いただけるよう丁寧な理解活動とタイムリーでわかりやすい広報活動に取り組んでいるか注視していく。 ◇40年超運転については、地域の皆さまの不安が払拭されるよう、引き続き様々な機会を通じて丁寧な理解活動に取り組んでいるか注視していく。	
学習する組織	⑨必要な技術力の維持・向上	社員	概ね良好→	改善余地あり→	●プラント長期停止による実務経験不足への取り組みを継続するとともに、社員育成について、技術伝承の具体的な取り組みを検討し、計画的に進めていく必要がある。
		協力会社	概ね良好→	概ね良好→	◇今後とも元請会社社員ならびに配下の協力会社の力量が確保されていくか注視していく。
	⑩ルール遵守・見直し	概ね良好→	概ね良好→	◇新規基準を反映した社内ルールについて、実効性があり、運用しやすいルールに見直されていくか注視していく。	
	⑪主体的な問題解決・改善活動	概ね良好→	概ね良好→	—	
安全の結果	⑫外部意見の積極的聴取	概ね良好→	良好→	—	
	⑬現状への問いかけ・リスク評価、リスク感知力	改善余地あり→	改善余地あり→	●H29年度継続して発生した労働災害の状況を分析し、重傷災害ゼロ、その他の労働災害の低減に向けて取り組んでいく必要がある。	
	⑭モチベーション維持向上	改善余地あり <sup>△</sup>	概ね良好 <sup>△</sup>	◇社員のモチベーションが維持・向上していくか注視していく。	
	プラント安全	→①、⑬	—	—	
労働安全	—	→⑬	●H29年度継続して発生した労働災害の状況を分析し、重傷災害ゼロ、その他の労働災害の低減に向けて取り組んでいく必要がある。(視点⑬)		
社会的信頼(コンプライアンス)	→④	—	—		
外部の評価	→⑬	→⑧	◇地元などからいただいた、自主的かつ継続的な安全性向上対策の推進により更なる安全性向上に取り組むことや、40年超運転等に関して丁寧な理解活動に取り組むことなどのご意見を踏まえて業務にあたっているか注視していく。(視点⑧) ◇検証委員会からいただいた、継続的に安全性を向上していくにあたっての姿勢や行動に関するご意見を踏まえて、リスクを適切に管理し、更なる安全文化の醸成に努めているか注視していく。		

### 総合評価

3つの切り口の評価を総合すると、全体としてH28年度と同程度の概ね良好な評価であった。  
また、安全文化を高めていくうえで取り組むべき課題を抽出でき、今後重点的に取り組む必要があることを確認した。

## 安全文化醸成活動

### ○安全文化醸成活動の経緯

当社は、美浜3号機事故を踏まえ、5つの基本行動方針に基づく再発防止対策に取り組むことにより、安全文化の再構築を着実に進めている。安全文化再構築の取り組みが風化することなく、永続していくことが必要であり、そのために安全文化の状況を評価し、改善する仕組みを構築した上で、安全文化醸成活動に取り組んでいる。

- 平成19年度： 原子力事業本部において安全文化評価を試行実施。評価の結果、課題、気がかり等から重点施策の方向性を策定。
- 平成20年度： 安全文化評価の取り組みを発電所へ展開。重点施策への取り組みを実施。
- 平成21年度： 平成20年度の安全文化評価スキームを継続実施。中間評価ならびにスモール事業本部評価（試行）を追加実施。
- 平成22年度： 平成20年度の安全文化評価スキームを継続実施。スモール事業本部評価について、各部門ごとの評価を追加実施。
- 平成24年度： 各部門の評価について、地域共生本部の評価を追加実施
- 平成26年度： 各部門の評価について、経営監査室、原子燃料サイクル室、総務室、購買室（現調達本部）、土木建築室、関西電力能力開発センターの評価を追加実施

～安全文化とは？～

組織・人が安全確保のために示す行動姿勢（意識や行動）であり、「トップのコミットメント」、「コミュニケーション」、「学習する組織」の3本柱（安全文化の3本柱）が重要。

この3本柱はIAEA（国際原子力機関：International Atomic Energy Agency）をはじめとする一般的な知見で、安全文化において重要とされている要素を包含している。

## 安全文化評価の基本的考え方

### ○評価の目的

原子力事業運営における安全最優先の組織風土（安全文化）を継続的に維持、改善するために、安全文化の劣化の兆候、あるいは組織や人の気がかり事項を早期に把握し、経営層に意見具申することで大きな問題点を未然に防止する。

### ○評価の対象

プラント安全、労働安全、社会の信頼を維持、改善するための美浜3号機事故再発防止対策をはじめとした保安活動やCSR活動などを含むあらゆる活動とする。

### ○評価の方法

#### a. 3つの切り口による評価

##### I 組織・人の意識、行動

安全文化の3本柱の観点から、具体的な評価の視点（14項目）を設定して評価を実施。

##### II 安全の結果（プラント安全、労働安全、社会の信頼）

トラブル傾向分析等から評価を実施。Iにおける問題の有無等を抽出。

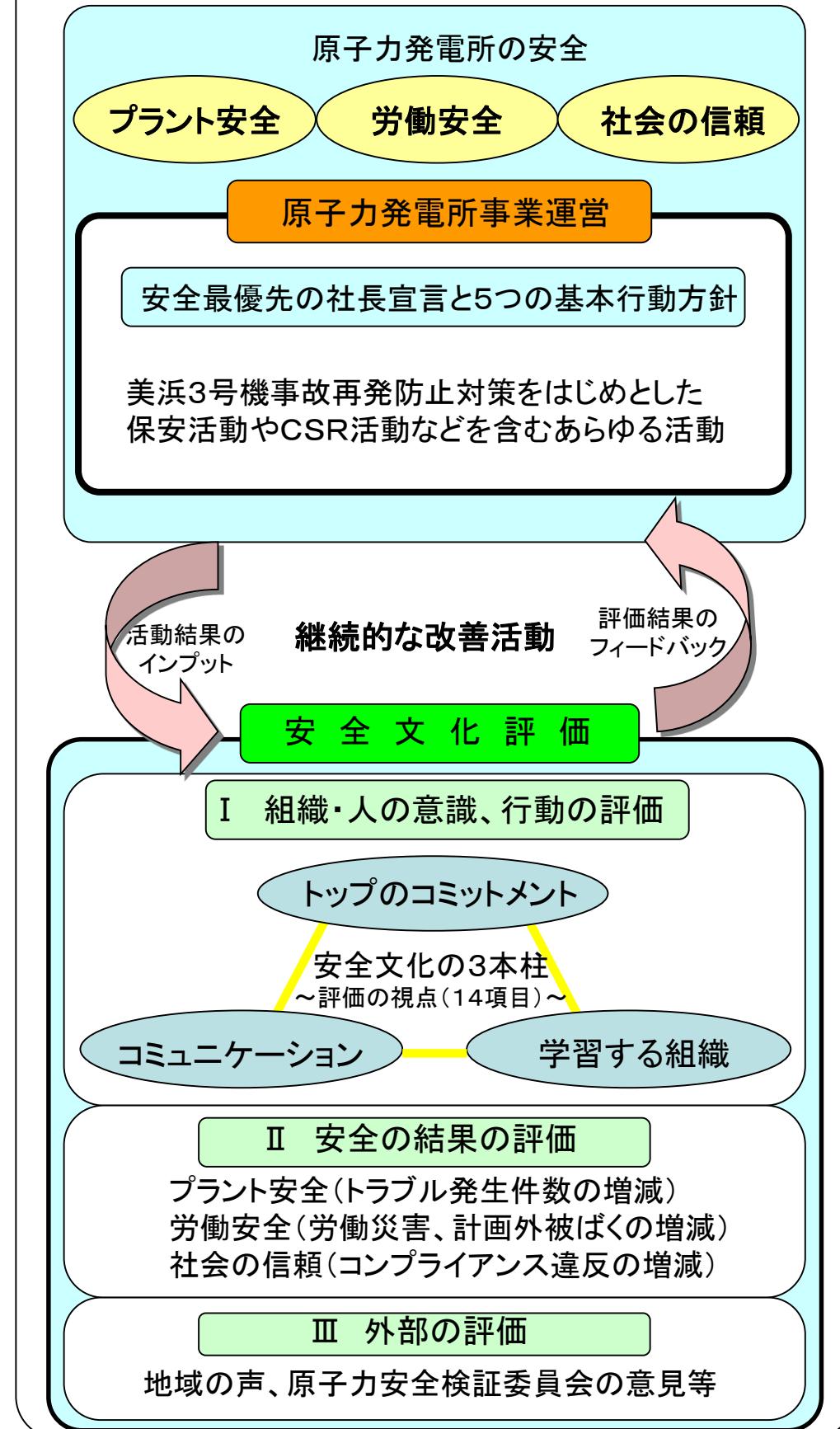
##### III 外部の評価（地域、原子力安全検証委員会）

社会の受け止めから評価を実施。Iにおける問題の有無等を抽出。

#### b. 評価に活用する情報

評価にあたってはIの評価の視点に基づく代表的な指標や参考情報を設定し、それらをインプット情報として、IIのトラブル等の分析結果、IIIの言語情報などを含めて総合評価を実施。

## 安全文化醸成活動の概要



### 原子力発電所の安全

プラント安全

労働安全

社会の信頼

### 原子力発電所事業運営

安全最優先の社長宣言と5つの基本行動方針

美浜3号機事故再発防止対策をはじめとした保安活動やCSR活動などを含むあらゆる活動

活動結果の  
インプット

継続的な改善活動

評価結果の  
フィードバック

## 安全文化評価

### I 組織・人の意識、行動の評価

トップのコミットメント

安全文化の3本柱  
～評価の視点(14項目)～

コミュニケーション

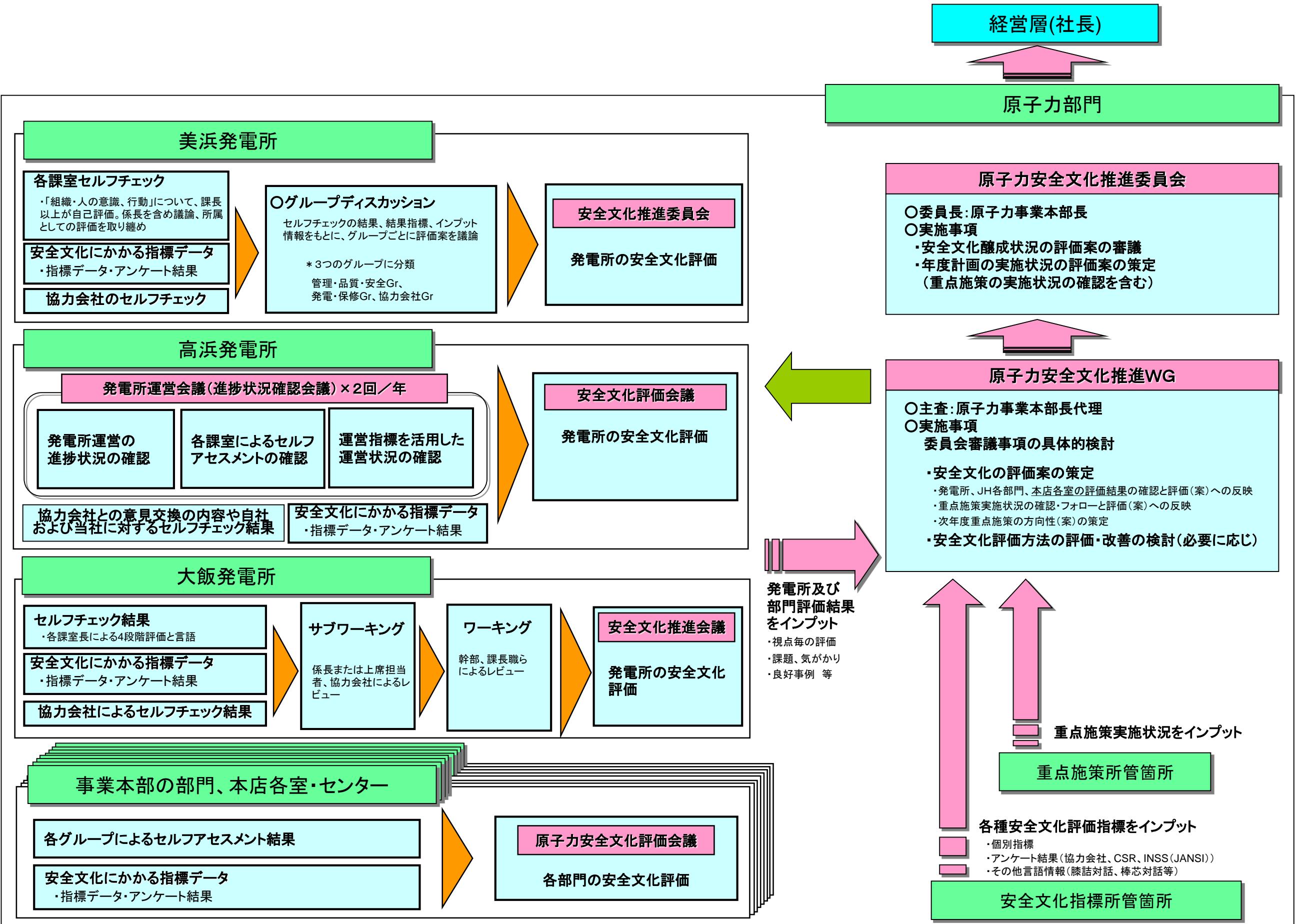
学習する組織

### II 安全の結果の評価

プラント安全(トラブル発生件数の増減)  
労働安全(労働災害、計画外被ばくの増減)  
社会の信頼(コンプライアンス違反の増減)

### III 外部の評価

地域の声、原子力安全検証委員会の意見等



# 原子力部門としての評価の考え方

## 原子力部門評価結果について

①各発電所、事業本部の各部門、本店各室・センターの評価結果を含むインプット情報に基づき、「評価の視点」ごとに「あるべき姿」と対比した評価を行い、次の4段階で評価

良好

概ね良好

改善余地あり

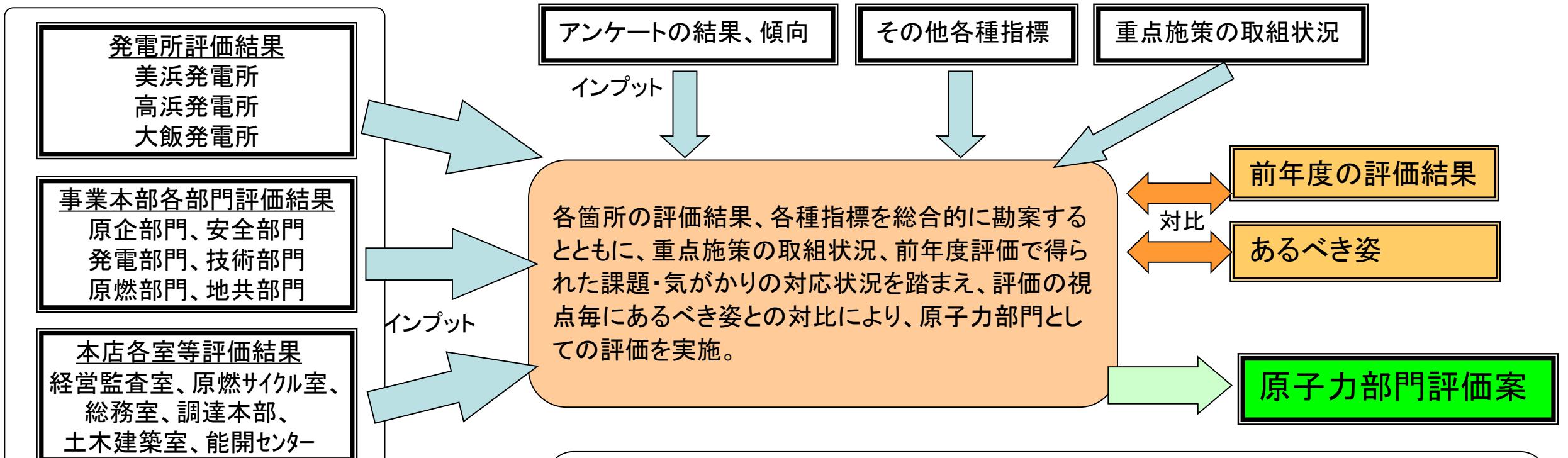
問題

②2～3年後の状態をベクトルで表示(↗は現在のレベルより改善していくと感じられる状態、↘は低下していくと感じられる状態にあることを示す。)

◇上記の判定で **問題** **改善余地あり** と判定した項目、または傾向評価を下向きとした項目に対して【課題】を抽出

◇ **概ね良好** **改善余地あり** と判定した項目の内、現状、【課題】とするレベルのものではないが、今後、推移を見守る必要があると考えられる事項は【気がり】として抽出

## 原子力部門評価の考え方



事業本部が定めた年度計画に従いつつ、それぞれで自律的な評価活動を実施

各所での評価の結果は、各所の自律的な改善活動につなげていく

各所での評価内容等の情報は共有し、水平展開にも取り組んでいく

各箇所の評価結果を原子力部門評価に反映させる際の考え方

- ・各箇所での問題意識が、当該箇所にとどまるものか、原子力部門全体(共通事項)として対応ないし注視が必要と考えられるものかを考慮し判断する。
- ・原子力部門全体に共通な課題として抽出されない場合でも、事業本部として支援が必要な課題については、対応する。